

水平線

【院長コラム 2025年11月】

【ゆっくり書く】

今どき手紙を書くなんてことは、やっている人の方が少ないと思う。家族や友人知人などへの連絡は、ソーシャルメディアを使った即時的なものがほとんどだろう。しかし、世話になったり恩を感じた方などにきちんと自分の言葉を伝えたいとき私は手紙を書く。時間も手間もかかる事ではあるが、万年筆が好きで日記習慣のあることが今も手書きを続ける理由なのかもしれない。

手紙を書くのは気持ちが落ち着いている時だ。感情が高ぶって手紙を書くと多くの場合うまくいかず、後で読み返してみてよくこれで出さなかつたものだと思ったことも一度や二度ではない。

だから今はどんな手紙を書く時にも、書き終えてからある程度時間を置いてもう一度読み直す。そうすると文章自体の修正点がわからることもあれば、切羽詰まって書いたことがそんなに慌てることではなかった、ということもある。さらに、時間をおくことでその時書いた内容と今の自分の考えが違ってくることもある。

このようなことから思うのは、手紙に限らず何事にも時間をおくというのは大切ではないかということだ。例えば我慢できない言動に対して自分の感情が爆発しそうな時、少し待って言葉を出すのを遅らせることで自身をコントロールできるというのもよく似た事なのかもしれない。

それはそれとして、古人が流れるような文体で一筆したためているのを見ると、その才能そして受けたであろう教育の凄さを感じずにはいられない。